

えひめ

宇和島・下波漁協 青年後継者ら

バイオ技術で宇和海守ろう

ヘドロ浄化剤散布

日ごろ恵みをもたらしてくる宇和海を守ろうと、宇和島市下波漁協(田中伊勢夫組合長)の青年後継者らが二十日、下波湾にバイオ技術を応用したヘドロ浄化剤を散布した。

浄化剤は熊本市のメーカーにしたもので、バクテリア(和島漁協(山下博文組合長)が開発。安山岩に嫌気性が硫化物を分解し海底を砂が同市蔵湾に散布しているバクテリアを含ませ細粒状にする。昨年十月には宇

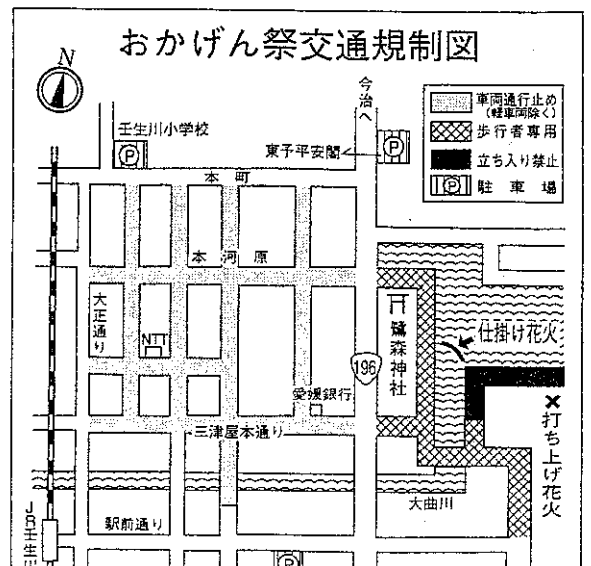
ヘドロ浄化剤を養殖いかだ周辺にまく下波漁協青年



空き缶など回収、海面清掃

散布に先立ち同日午前七時過ぎから漁船約五十隻が出動、湾の海面清掃をした。藻、空き缶、ビニール袋などをどろどろ回収した後、船約十隻で散布した。神崎地先では養殖いかだに沿って船を走らせ、浄化剤計四トをまいた。青年らはビニール袋を開け緑色の細粒をスコップですくっては海中へ。驚いてハマチ稚魚がビチビチはねる姿も見られた。既に実施の蔵湾では海がきれいになりつつあるとの報告もあり、期待を込めた。約一時間で作業を終えた。後継者は今年から市営与の柱状採泥器で海底の泥をとり分析している。浄化剤散布後の泥も近く採取し同市水産課、県水産試験場の協力を得て追跡調査する。

空と海彩る打ち上げ



水上スキーで福岡・釜山をノンストップ横断した

よねむら やすお
米村 泰男さん

宇和島市中央町

女界灘二百十時をノンレーニングを続けた。ストップ横断。前人未到の無謀とも言える冒険だ。昨年の初挑戦は、予想をはるかに超える外洋



の高波に打ち砕かれた。無念の帰還、だがチャレンジ精神は逆に強まった。「今回が最後」。背た。海は岩のような波をたものほ「水の陸で一年間、毎日つぶつけてきた。うねりを

縦書きの注釈や補足情報

縦書きの注釈や補足情報